



2019年4月2日 火 朝刊に 院長 梅川康弘医師が掲載されました

17 メディカ 2019年(平成31年)4月2日 火曜日

M岡山医療健康ガイド メディカ
MEDICA Vol.186

風疹ワクチン・緊急対策開始 対象年代男性は受診を

風疹のまん延を防止するための国を挙げた緊急対策（追加的対策）が今月スタートした。岡山県内でも、指定範囲の誕生日の男性（40～57歳）を対象に、市町村から無料受診券が送付され、抗体検査を受けた上で、必要

風疹の抗体検査や予防接種を担当する医療機関の一つである倉敷成人病センター・倉敷成人病クリニック（倉敷市白楽町）の梅川康弘院長に、ワクチン接種の重要性について尋ねた。

「先天性風疹症候群が怖いと言われるのはなぜでしょうか。免疫ができていない胎児が風疹ウイルスに感染すると、生まれながら障害を抱えてしまう。難聴や白内障、心疾患などが起こりやすい。特に妊娠初期はいろいろな障害が重なりやすく、危険とされている。」

母体の抗体がしっかりあれば胎児にうつることはないが、抗体価が下がっていると、母親は発病しなくても、生まれた赤ちゃんが先天性風疹症候群だったという例もまれにあると聞いている。

「現在はワクチンを2回接種することになっていますが、1回接種では不十分なのではないですか。」

昔は1回接種すれば大丈夫と言われていたが、それは患者が散発的に発生していたから。一度抗体ができて、さらにウイルスに接触することでまた抗体価が上がり、効果を継続できていた。今は発病する人がはるかに少なくなり、ウイルスに接触することがなくなった。1回だけの接種では抗体価がだんだん下がり、感染する人がいることが分かっています。

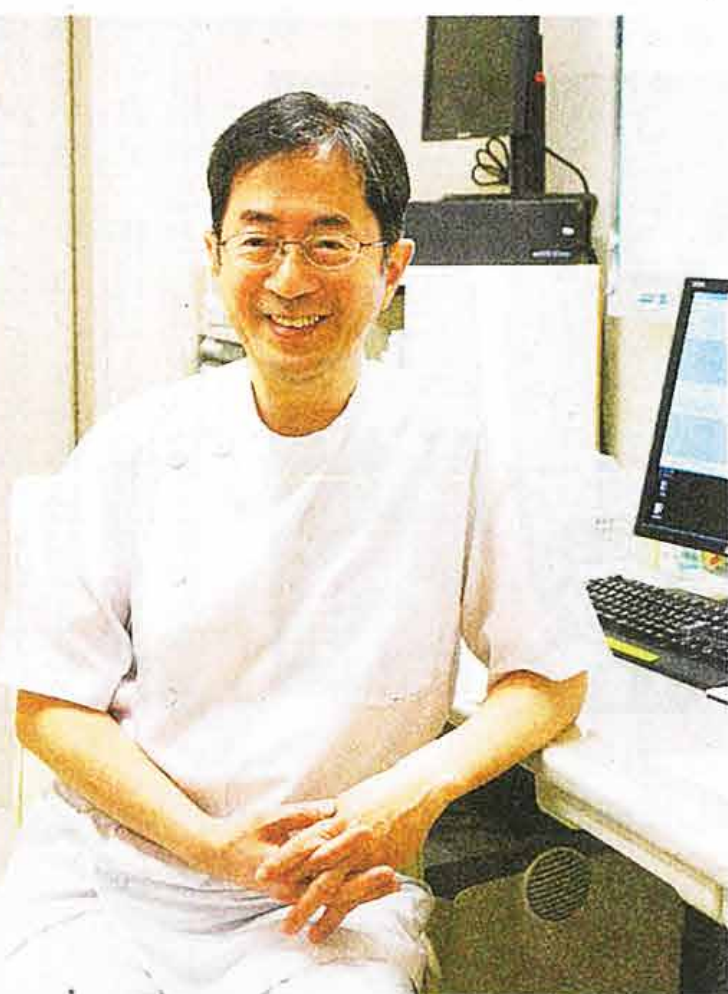
倉敷成人病センター・倉敷成人病クリニック

梅川康弘院長に聞く

ほとんどの高齢者は風疹にかかった経験があり、抗体を持っている。ぽっかり空いているのが追加対策の年代の男性。ワクチンが重要で、みんなが抗体を持てば流行を抑えられる。

「国が20年7月までに85%の抗体保有率達成を目指しているのは、どんな意味があるのですか。」

咳などで飛沫感染する風疹は、感染者が1人出ると、周囲の人が抗体を持っていないければ6～7人に感染を広げる力があるといわれる。インフルエンザと比べても感染力は強い。しかし、85%以上の人が抗体を持てば、地域で大きく流行する事態にはならないと計算できる。「集団



風疹ワクチンの接種を呼び掛ける倉敷成人病センター・倉敷成人病クリニックの梅川院長

集団免疫で流行抑制

免疫」という考え方だ。対策では麻疹と風疹の混合ワクチン（MRワクチン）を接種することになっている。麻疹も感染力が非常に強く、成人が感染すると重症化しやすいといわれる。麻疹予防も兼ねて、この機会にぜひ接種してほしい。

対策の対象外となっている年代の人でも、抗体検査を受けて十分でないことが分かれば、費用はかかるが、接種を検討することをお勧めしたい。

倉敷成人病センター・倉敷成人病クリニックは毎週水曜日から午後5時までの予防接種外来を設け、MRワクチンなどの予防接種を受け付けている。申し込みは予約センター（☎086-422-2112）。

風疹のまん延を防止するための国を挙げた緊急対策（追加的対策）が今月スタートした。岡山県内でも、指定範囲の誕生日の男性（40～57歳）を対象に、市町村から無料受診券が送付され、抗体検査を受けた上で、必要

があれば予防ワクチンの接種を受けることが求められる。なぜ特定の年代の男性が対象となり、どういう手続きで受診すればよいのだろうか。県などの対策担当者に取材した。（池本正人）

今回の対策の対象者は1962年4月2日から79年4月1日生まれの男性。この年代が選ばれたのには理由がある。

風疹の定期予防接種は77年に始まったが、当初は女子中学生のみが接種を受けた。妊婦が感染して胎児に重い障害を引き起こす先天性風疹症候群を防ぐことを優先したためだ。その後、男性にも接種すべきと考えられるようになり、さらに1回の接種では十分な抗体を維持できない人がいることも分かり、対象者や接種時期の見直しを重ねられてきた。

現在は1歳児の時と小学校入学前の1年間の計2回接種することになっている。しかし、制度の変遷により、十分な抗体を持っている人の比率は年代によってばらつきがあるのが実態だ（表参照）。

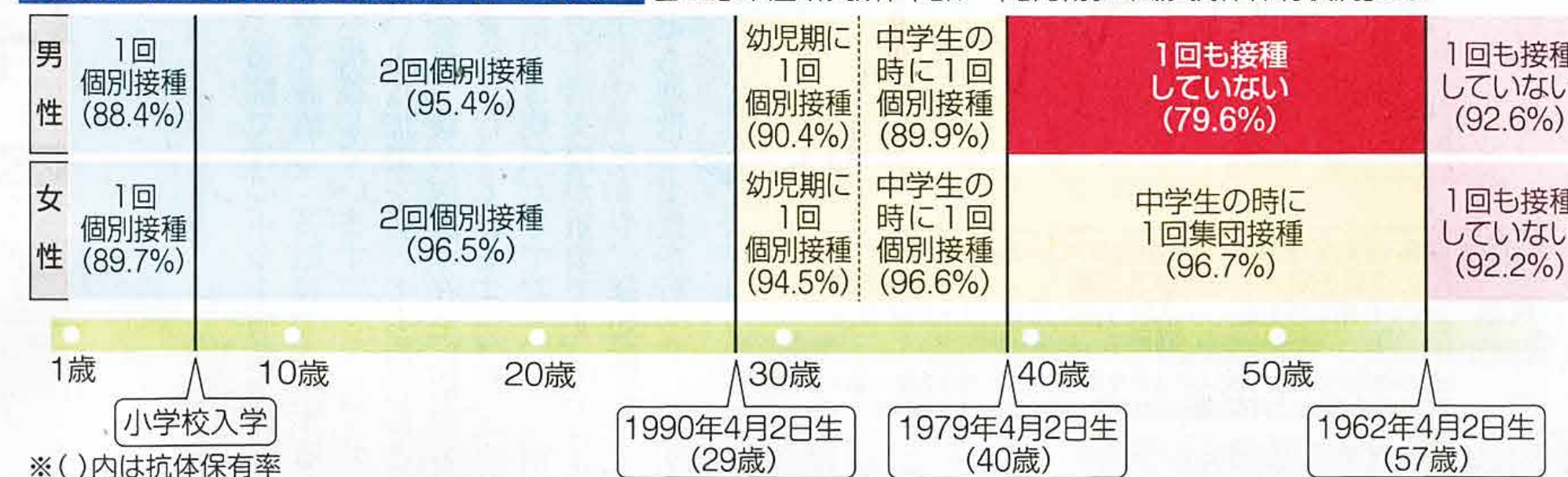
対策の対象となるのは1度も定期接種の機会がなかった男性たち。この年代の人たちが幼い頃、風疹はまだ身近な感染症で、一度かかったことがあれば抗体がつくられるため、約8割の人は今も抗体を維持している。しかし、残る2割の人は無防備な状態にある。

対象より上の年代の男女も定期接種の機会がなかったが、何度も流行にさらされてきたため、大半の人が十分な抗体があると考えられている。

風疹患者は昨年夏頃から増え始めているが、その中心は対策の対象年代で抗体のない男性とみられている。岡山県感染症情報センターによると、昨年1月から今年3月上旬までに県内では31人の風疹患者が報告された。31人は男性で、うち6割はこの年代に重なる40・50歳代だった（グラフ参照）。全国的に同じ傾向で、1月には5年ぶりに埼

抗体保有率 来年7月までに85%目標

年代別風疹の予防接種状況(今年2月時点) 国立感染症研究所「年齢・年齢群別の風疹抗体保有状況」より



岡山県の年代別風疹患者数
2018年第1週～19年第10週、32名。(男31人・女1人)



「事務作業や予算措置が急ピッチで進められており、いつ受診券が送付されるかは市町村ごとに異なる。同課は「対象者は市町村の広報誌やホームページの案内に注意し、受診機会を逃さないように」と呼び掛けている。

県健康推進課によると、対象者は三つの機会を受診することを想定している。①市町村と契約した医療機関に向く②40歳から74歳の公的医療保険加入者に対する「特定健診の実施機関で受診③職場で義務づけられている定期健診の実施機関で受診」のいずれかの機会に無料受診券を持参すればよい。

ワクチン供給の調整もあり、初年度に受診券が送られるのは72年4月2日～79年4月1日生まれの男性に限られるが、それ以外の対象者も、希望すれば市町村から発行してもらおうことができる。受診の際にはまず抗体検査を受ける。十分な抗体がないと判定された人は、再び医療機関に向いてワクチン接種を受けることになる。

玉県で先天性風疹症候群の発生が報告された。

追加対策により、国は2020年7月までに対象者の抗体保有率を85%まで引き上げることを目指す。大きな目

的は、東京五輪・パラリンピックの開催に伴い、多国籍の訪日客が入国して風疹がまん延するのを防ぐことだ。対策は21年度まで続け、保有率90%を最終的な目標にする。

予防接種希望の方は

予約センター（☎086-422-2112）までお電話ください



一般財団法人
倉敷成人病センター
Kurashiki Medical Center

記事デジタル版は
こちらから

